

公立幼稚園は

- 「教育の場」です。
- 全国どこでも幼稚園教育要領に基づく教育を実施しています。
- 公立の小学校・中学校・高等学校と連携しています。
- 研修を積んだ優秀な先生がいます。



未来社会の創造は 子育ての楽しさから!



幼稚園からずっと公立

公立幼稚園についてのお問い合わせはこちらまで↓

発行責任者

全国国公立幼稚園長会

会長 斎藤 實

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-3
TEL.03-3580-0572 FAX.03-3580-5077
e-mail entyokai@kokkoyo.com
<http://www.kokkoyo.com>

子育てに いっしょけんめい



ありがとう幼稚園
～全国のお父さん、
お母さんの声を集めました～



子育てしてたら、 いろんなことが 気になります

ご心配なく、お母さん！
公立幼稚園はあなたの
いっしょけんめいな
子育てを手伝ってくれますよ。

子どもに友達ができない

- 家の近所に小さい子がいないので、遊ぶ相手がいません。
- 幼稚園の友達と遊ぶ約束をしません。
- 乱暴で友達のものを取ったり、たたいたりするので嫌われているようです。
- みんなが仲良く遊んでいるのに、いつもひとりでポソソとしています。

しつけがわからない

- 何をしてもグズグズするので、「早く、早く」とせき立ててしまいます。
- おこづかいはいつ頃からあげればいいんですか？
- 外で遊んでほしいのに、家でゲームばかりしています。
- 平気でダンゴムシやウサギを触るんですが、不潔では？
- 落ち着きがなく、じっとしていません。
- 少食なので、つい無理やり口に押し込んでしまいます。

もうすぐ幼稚園

- スクールバスはあるのですか。
- 毎日お弁当を作らなければならないのですか。
- 文字や数を教えてくれるのですか。
- 近くに身内がないんですが、用事のあるときは預かってもらえますか。

日々のイライラ

- いうことをきかないので、つい手が出てしまいます。
- お母さん同士のつきあいに疲れます。
- 子育ての悩みやグチを言う相手がいません。

先輩お母さんのアドバイス

「だから幼稚園がおすすめ」

歩いての 通園をすすめています

地域にあるので、歩いたり、自転車を利用したりしてがんばりました。園までの道を親子で手をつなぎ、おしゃべりしながら通った日々が今では宝物です。

通園途中に道端に咲く季節ごとの花をいっしょに楽しみました。妹と弟がいるので上の子にかかりきりになることができませんでしたが、登降園のこのひとときだけは私を独占できると喜びました。

一人一人の 子どもが主役です

ですから、障害のある子もいっしょに生活します。それがとてもしぜんなことなんだと子どもたちから教わりました。

子どもたちは実にしぜんにさまざまな人と接しています。時にはトラブルになったりもしましたが、それも経験。さまざまな人と出会い、経験する中で親も子どもも育つんだと思います。

数や文字を 教えてくれます

もちろん、数や文字も教えてくれますが、方法が違います。むしろ「育む」とか「育てる」といった感覚で、ひとりひとりによって違う興味の引き出し方をしてくれます。うちの子はお店屋さんごっこをするうちに文字も数も覚ええましたよ。

前々から絵の横に名前を書くなどして文字の意識づけはされていたのですが、急に文字に興味を持ち始めた時期がありました。すると先生はそれを見逃がさず、ていねいに伸ばしてくださったのです。おかげさまで子どもは2日で文字を覚えてしまいました。

手間ひまを かけて育てることの大切さを 教えてくれます

先生は子どもの何を大切にすべきかをよく知っておられます。やさしくて面倒見のいい先生方です。そして、遊びでもなんでも、子どもの姿のどこを見ればいいのかを私たちに教えてくださいました。

「今、手をかけたことが思春期に花ひらきますよ」と園長先生がおっしゃったことが心に残っています。いくら手がかかるといっても幼稚園時代はたかだか1~3年、この期間にいっしょうけんめいしないでいつするのかと思いましたが、後で後悔しなくなかったですね。

地域の親子の ために子育て支援を してくれています

例えば、子育てで悩んでいたとき、幼稚園の先生が話を聞き、相談にのってくださいました。本の情報や一般論ではなく、たくさんの子どもの見てきた経験豊かな先生が、私の子どもについての具体的なアドバイスをくださったんです。

まだ幼稚園に行っていない子どもたちのために、園庭を開放してくれるんですよ。何より安全だし、広い、幼稚園の遊具で遊べるので、子どもはとても喜びます。

遊びこそ学び

幼稚園では友達と遊びに夢中。
遊びの中で子どもは
多くのことを学ぶのだろう。
人と人がいっしょに
生きる意味、愛、勇気、思いやり。



遊びの楽しさが譲り合う気持ちを育てる

子どもを送った帰り、4・5歳児が立ちこぎや二人乗りを楽しそうにしているのを、うらやましそうに見ている3歳児がいました。可愛いので見ていると、「乗りたい」と先生に言ってブランコを押ししてもらい、喜んでいました。そのうちに自分でこげるようになり、いつまでも乗り続けて代わろうとしません。その横では5歳児が「1、2……おまけのおまけ……かわって」「いいよ」と代わりあっています。それを見て、いつの間にかその3歳児もまねしていたので驚きました。遊びの楽しさが、我慢して友達に譲る気持ちも育てていくことがわかりました。

(愛知県・樋口泰子)

子育ての楽しさを感じた時

一日一日が別の顔です。昨日は泣いて機嫌が悪かったのに、今日はニコニコうれしそう。お友達と新しい遊びをしたことや虫を発見したことなどを楽しそうに話す姿を見ると、本当にうれしくなります。毎日見ているとわからない部分も、お友達や先生方に支えられて確実に成長しているようです。子どもを育てているのではなく、親になるために子どもに育てられていると感じます。子どもの笑顔、成長が私の子育てのごほうびです。“ありがとう”の一言です。

(佐賀県・早田和美)



遊びを通して学ぶ姿がよくわかる

子どもには、明るくのびのび育ててほしいと思い公立幼稚園を選びました。広い園庭には特別な遊具はありませんが、木々や草花、大小の築山や小川…身近に季節を感じられる自然がたくさんあります。その中で子どもたちは、いろいろな遊びを見つけだし、探検したり、発見したりと、毎日が冒険のようです。遊びの中からいろいろなルールや友達とのかわりを知り、善し悪しの判断、自ら考え行動できる力が身につけてきたように思います。これから生きていくうえでいちばん大切なことを、遊びを通して学んでいます。そんな子どもの姿を見ると、力強く、頼もしく感じ、本当にうれしく思います。

(大阪府・山田知子)

自立した心を育てる幼稚園

子どもと歩いて登園している途中、いろいろなことを話してくれました。大人の視点では、何でも無いこと、車で通り過ぎるだけでは見過ごしてしまうようなことが子どもにとっては一つ一つが発見であり、驚きの連続、まさに小さな冒険です。子どもたちは、このような毎日の体験から自然を感じ交通規則など、さまざまな知識を得ています。そして何より「自立した心を身につけている」と、誇らしげな娘の顔を見て確信しました。

(石川県・多長登代)



友達と遊ぶ楽しさ

大好きのかたまり

幼稚園は大好きのかたまりです。先生がいて、友達がいて、自然に囲まれた最高の環境の中で、子どもたちは毎日、宝物のような時間を過ごしています。遊びは子どもたちにとって探検気分。先生方も大人にあった子どもを教育するのではなく、子どもにあった先生でいてくださり、短所より早く長所を見つけ、時にはやさしく、時には厳しく、子どものもっている大切な芽をどんどん伸ばして下さる魔法の笑顔を見習って、私も日々努力中です。子どもにとっても親にとっても先生大好き、幼稚園大好き！これが理想のような現実の我が家です。

(山口県・三原洋子)

にとっても、子どもの成長の道筋を知らせてくれる心の道しるべのように感じています。

(高知県・沖 佳奈恵)

一人一人を大切にしてくれる幼稚園

何事にも消極的だった私の娘が鉄棒・縄跳び・竹馬などいろいろなことに自分なりの力で頑張れるようになりました。それは先生が娘のペースに合わせ、ゆっくり見守り、励まして下さっているからだと思います。結果だけでなく、その過程を大切に受け止めて下さるので挑戦することが楽しくなったようです。先日も「竹馬に乗れるようになったよ」と自信たっぷりに話していました。成功すれば自信となり、それが次の挑戦につながっていくということを日々実感しています。

(福岡県・奥村恵子)

子どもの興味を引き出す保育

年長組になった末っ子は上の子どもたちと同様に幼稚園が大好きです。それは、信頼できる勉強熱心な先生方に見守られて、のびのび、生き生きとした園生活を過ごせるからでしょう。例えば、長男は友達と段ボールの動物を作っているうちに、卒園時には持ち帰れないほど大きな動物園ができあがっていました。押しつけではなく子どもの興味を引き出し、導く教育がここにはあると思うのです。

(岩手県・佐藤みどり)

獅子のおじさんが来たよ

「お母さん、今日、幼稚園ヘシンのおじさんが来たよ」と子どもが勇壮な獅子舞に感動して目を輝かせ、今日の出来事を話してくれます。心を動かされる出会いで日々活発になっていく子どもの様子から、幼稚園の楽しさが伝わってきます。地域の文化を知らない若い親にとっては、幼稚園でふるさとの昔話をしてもらったり、凧作り、花作り、舞を地域の名人に教わることで、子どもも親も地域の文化と出合わせてくれることが何よりもうれしいのです。友達といっしょに楽しく遊び、日に日に子どもの育ちを実感しています。

(香川県・平尾友香)

友達との遊びを通して育まれるもの

娘が卒園してから5年、下の子も今年、年長組になります。四季折々の自然の中、どれほどたくさんの遊びをしたことでしょうか。あるお母さんが言われました。「この幼稚園の子は、その子が得意な場面で自分を前に出せるよね」と。それは友達同士が互いの良さをしぜんに自覚し、認め合っているから。「こうするんだよ」「すごいな」「がんばれ」、遊びのさまざまな場面で子どもたちの素敵な言葉に出会えます。一人一人の特性を光り輝かせる豊かな遊びと、「友達とのかわり」がそこにはありました。

(岐阜県・岩屋美保子)

我が子の保育参観

保育参観ですべてが気ままに言う我が子の姿を見て考えさせられました。家ではすねたことはほとんどなかったのですが、それはさせなかったのだと気づきました。上の子が大きいせいか、つい同じ感覚で接し、まだまだ甘えた気持ちに気づかなかったのだと思います。先生が我が子のあるがままの姿を丸ごと受け止め、成長の通過点をきめ細かく楽しく指導される様子を見て、幼稚園教育のすばらしさを改めて感じました。

(和歌山県・森下由美)

娘の成長を感じて

娘を転入園させて、8か月が過ぎました。慣れ親しんだ友達と別れ、新しい幼稚園へとかわることはかなりハードルがありました。しかし、遊びの中でいろいろな体験を通して友達とのかわりあい大切にし、豊かな心を育てることを目指している公立にかかわることに決めました。今、周りからも娘の表情が明るく元気になったと言われ、「本当にここに通うことができて良かった」という思いでいっぱいです。友達の良さを自分のことのように自慢したり、意見をしっかりと伝える姿に成長を感じ、娘にとって公立幼稚園への転園が本当に良かったと喜んでます。

(宮崎県・沖田智代美)

自分の歩幅で

生活習慣や社会性は先生や親から強制されて身につけていくものではなく、心や体を働かせて自分から体験する中で備わっていくことを学びました。家庭では、子どもが苦手とすることを、親が全部やってしまいがちです。しかし、幼稚園では、励ましたり、認め合ったりする中で少しずつ自分でチャレンジしているようです。自分の歩幅で歩いていくことを教えてくれる幼稚園の先生は、親

親子のふれあい

手をつないでの登降園、
お母さんの手づくりお弁当、
お父さんの絵本を読む声。
親子で過ごす幸せな時間、
愛された記憶は人生の宝物。



うになってからわかったのですが、長男は恐竜が大好きなようで、毎回同じシリーズの恐竜の絵本を借りてきました。しかけ絵本も面白がって、アクションつきで読んでくれる時もあります。読み終わった後、感想や質問をみんなで語り合うことも楽しい時間です。

(茨城県・園部浩美)

絵本の力

子どもが通う幼稚園では、毎日自分の好きな絵本を選んで借りることができ、保護者にも好評です。子どもは自慢げに「今日、絵本を借りてきたよ」と見せてくれます。姉たちが私の代わりにその絵本を読んでくれたりもしています。その姿はとてほほ笑ましい光景に思われると同時に、感心させられます。絵本は親子のスキンシップができます。また、想像力、思考力、心の豊かさを表現する力など、学ぶことがたくさんあります。

(秋田県・菊地聖子)

「かぼちゃ号」

毎月2回、移動図書館「かぼちゃ号」が幼稚園に来ます。園児たちは降園するやいなやお目当ての本めがけて…。お気に入りの本を手にした子どもがその場で本を広げると、いつの間にか子どもたちの輪ができました。私も「おばちゃん、読んで」と言われ、読み聞かせます。夢いっぱいの本の中に自分を置き換え、まねている姿がほほ笑ましいのです。そんな絵本の世界に親子で飛び込むきっかけをくれる、楽しみいっぱいの「かぼちゃ号」。みんな大好きです。

(愛媛県・東 聡子)

手をつないで幼稚園

送迎で得た大切な仲間

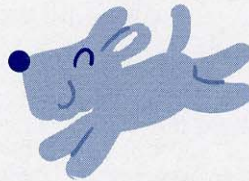
親子いっしょの登降園は、この時期だけの特権です。語らいながら歩く中で幾度となく子どもの豊かな感性にふれ、楽しくなりました。何よりも貴重だったのは、幼稚園が親同士のコミュニケーションの場であったことです。毎日会うことで親子共に仲良くなれ、また、子育ての悩みや不安も話すことができ、励まされたり、参考になることが多々ありました。親しくなるにつれて親同士の団結力も深まり、互いの子どもの成長を見守り、サポートする大切な仲間を得ました。

(熊本県・野田久美子)

子どもと共に越える人生のハードル

「幼稚園行きたくない」、3人目の子どもが入園することになった時、最初に彼の口から出た言葉でした。嫌がる彼をどうにか登園させて先生に預け、泣き叫ぶ声を聞きながら、後ろ髪を引かれる思いの日が続きました。それが1か月経ったある日の朝、「早くしないと遅れちゃうよ」と、思いもしなかった彼の言葉。いつの間にか環境に適応し、先生方の苦労や親の心配をよそに、先頭を切って幼稚園に向かう小さな後ろ姿に、この先どんな問題が起こっても、いっしょに乗り越えられそうな頼もしい気持ちになりました。

(北海道・羽賀奈津美)



絵本の楽しみ

一番前が指定席

自分の思いが出せないとパニックを起こす我が子が心配で、口やかましく注意ばかりしていました。先生は私の悩みに快く応じ、励ましたり、助言をしてくださりました。参観日、「いちばん前が指定席」と絵本を食い入るように見る我が子に感激し、安心しました。家でも読み聞かせを始めたところ、私が絵本の楽しさを知り、子どもも少しずつ落ち着いてきました。子育てが楽しくなったのも、先生が親子の思いを十分に受け止め、援助してくださったおかげだと思えます。

(福井県・牧田祐子)

絵本のおばちゃん

園からの帰り、手をつないで歩く年長組の娘が、今日読んでもらった本の話をしてくれます。「きをつけましたよ きをつけましたよ」「うそくない！」娘の口から覚えた言い回しが飛び出します。先生に毎日読んでもらうのに加え、数人のお母さんが週に2回、絵本を読み幼稚園へ行っています。私も年少の子どもたちから「絵本のおばちゃん」と呼ばれています。我が園には、昔遊びや山登りをいっしょにする地域のボランティア先生がたくさん来られるので、私も娘が卒園しても、ボランティアとして「子どもたちと絵本の感動を！」と密かに考えています。

(岡山県・森本典子)

絵本の楽しみ

長男が小さかった頃は、絵本を読んでいる時にページをめくろうとするので「せっかく読んであげているのに」と、親子間に気まずい雰囲気の流れていました。図書館に行くよ

先生と保護者と地域に見守られて心豊かにたくましく育つ

「おはよう！」の登園とともに、自分の好きな遊びに取り組んだり、お友達といっしょに遊びを進めたりする楽しさを、満喫できる幼稚園生活。保護者が毎日、送り迎えをするので先生と話す機会も多く、子どもの変化がタイムリーに聞くことができ、家庭と園とがしっかりと連携して子育てにあたれ、親同士も親しくなれます。また経験豊富な先生が多いので、悩みごとなども気軽に相談でき、子どもたちも親も安心して過ごせます。そして地域の人たちにも温かく見守られている子どもたちは、心豊かにたくましく育っています。

(群馬県・松本路子)

子どもと言葉と楽しい子育て

子どもたちの楽しい会話が、「あのね」という一文集になって毎月幼稚園から届きます。子どもの何気ない言葉に、「はっ」としたり、忘れていた心の奥の大切なものに気づかされたり、思わず涙がこぼれることさえあります。子どもを産む前にはわからなかった子どもたちのおしゃべりという形の「詩」、こんなにも胸を熱くさせる力があるなんて…。子どもたちが愛しく、この子たちの母親でよかったと感じます。いつまでも感じる心を忘れず、子どもに学びながら子育てを楽しんでいきたいと思えます。

(福島県・佐藤康子)

親子で紙やぶり

先日の保育参加では、思いきり紙を破ったり、散らかしたりできて楽しかったです。家では「散らかさないで」とばかり言っていますが、子どもと遊ぶとはこういうことなのだと思います。親もいっしょに楽しむことでストレスが解消できるという先生のお話を聞き、毎日とはいかなくても、週に一度くらいはいっしょにはしゃぐ遊びをしてみようと思えます。

(東京都・亀井ひろみ)



父親の子育て参加

お父さんの活躍に目を輝かせて

春の遠足では、ザリガニ釣りの妙技を披露し、夏の夕涼み会では花火師に。運動会では、子どもを乗せたネコバスを超速ピードで引っぱり、秋祭りでは、コマや竹馬の達人芸を子どもたちに伝授。冬の登山では、険しい山道をさりげなくサポートし、毎月のクリーンデーでは力仕事や高いところはお任せ。いつもとは違うお父さんの活躍に子どもたちは目を輝かせます。日常は、他の子とかかわる機会のないお父さんも、幼稚園でたくさんのお父さんたちの笑顔や「ありがとう」の言葉に囲まれて、気持ちが温かくなるようです。

(徳島県・伊藤由紀)

「お父さん、凧あんなに高いよ」

1月の初め、父親たちと公園で凧あげをして遊ぶ日がありました。前日の夜、父親は「明日は楽しみだなあ」と言いながら、手作りの凧に我が子の名前を大きく書いていました。当日、凧は強風を受けて、ブンブンと舞い上がりました。口をぎゅっと結んで糸を引く父親の真剣な姿と青空に舞う凧を、子どもが交互に見つめていると、「ほら、持ってみな」と父親が糸を手渡しました。一瞬の緊張の後、「お父さん、凧あんなに高いよ」と我が子の大きな声が聞こえました。父親の愛情を一杯に受け、育っていく子どもの姿でした。

(静岡県・石川真奈美)

自然との語らい

わざわざ遠くに出かけなくても家の周りにだって自然はある。四季折々の自然とのふれあいが感性を磨き、命の大切さを教えてくれる。



自然の中でのびのびと

小さな秋みつけた

「今日ねえ、みんなとイチヨウの木とで、お弁当食べたの。風がサアと吹いて、みんなの頭の上やお弁当のふたにヒラリって落ちてね。そっで、みんなで笑ったの」とジュスチャー入りで楽しそうに話す息子。昔は当たり前だった自然とのふれあいが減り、季節感も薄れていく今、この話を聞いて、私は本当にうれしかったのです。イチヨウの木の下で、お友達と笑い合った出来事は、大人になってもきっと忘れず胸に残っているでしょう。その日の我が家の食卓には、息子が持ち帰って生けたイチヨウの花束が黄金色に輝いていました。

(鳥根県・水野恵子)

大好きな園庭で

「お母さん、池に小さな魚が泳いでいるよ」迎えに来た私の手を引っぱって、娘が話してきました。その池は、子どもたちにたっぷり自然に親しんでもらおうと、保護者の手で造ったばかりの小さな池で、まだ生き物が入っていないはずでした。「え、メダカもいるの？」娘に手を引かれ、覗き込むと、小さなものが泳いでいるように見えます。子どもの目には、かわいい魚の赤ちゃんに見えたのでしょう。幼稚園と親がいっしょに子どもたちのために何をしたらいいか考え合いながら、短い幼児期の子育てを楽しんでいます。

(新潟県・渡辺亜矢子)

幼小中連携でサツマイモ作り

カッコウの声が園庭に響く頃、附属中の「学校お助け隊」が幼稚園の畑の土を掘り起こし、サツマイモ作りの始まりです。園庭で元気に飛び回る子どもたちといっしょに、サツマイモはぐんぐん大きくなりました。ギンナンの実を拾いながら100まで数えられるようになった頃、イモ掘りをして、附属小1年生とパーティーをしました。自分たちでお料理したサラダとスイートポテトの味は格別で、子どもたちは大喜びでした。(青森県・増田恭子)

地域と共にのびのび育つ子どもたち

少食で、歩かず抱っこばかりだった娘は、今では親よりも良く食べ、寒い朝も元気に歩いて登園しています。園での活動が子どもを本当にたくましくしてくれました。園では自然体験や地域との交流が盛んです。近隣の里山へ徒歩で出かけたり、住民の方々とイモ掘りや餅つきなどをいっしょに楽しみます。併設園の良さを生かした活動が多く、機会あるごとの幼小の交流、合同で行う運動会などの連携が充実しています。地域の中でのびのびと育つ我が子の姿に、親たちはとても満足しています。(大分県・薬師寺博美)

地域の中で子どもが育つ喜び

先生が近くの川原で見つけた数珠玉を、近所の人がたくさん集めてくれて、子どもたちがそれでネックレスを作ります。保護者が季節の植物や枝付きの果物を持って来ます。子どもたちが自分で見つけたアオムシやヤゴ、ザリガニなどを持って来て、みんなで観察しながら大切に育てます。このようなことが、日常さり気なく行われています。幼稚園の頃に堪能してほしい遊びや体験が、存分にのびのびとできることは、まさに自分の子どもが通う幼稚園に望むことでした。見えないものを大切にする、時代に流されない教育が公立幼稚園の良さだと実感しています。

(広島県・小林美華)

秋広場で遊ぼう

当園は、3・4・5歳児合わせて7名という小規模園でスキー場が近く、山に囲まれた自然豊かなところにあります。少人数ですが、ダイナミックな活動の経験を大切に、隣接する小学校の1・2年生といっしょに遊んだり、散歩に行ったりして、幼小交流が行われています。子どもたちは小見の里で見つけたドングリやクルミ、栗やススキなどの自然物を利用して「秋のレストラン」「秋のオモチャ屋」など自分たちの「秋広場」をつくり、保護者や地域の方々をお客さんにしてお店ごっこを楽しみました。

(富山県・村本 薫)

さまざまな体験ができる幼稚園

今では養蚕をする農家が、ほとんどなくなってきています。地域の中で1軒だけ蚕を飼っているおばあちゃんが、幼稚園の子どものためならという園児が蚕を飼うのに協力してくれました。葉を取って蚕の幼虫に食べさせることから始まり、繭玉になるまでを、親切に教えてくださいました。この交流を通して、子どもたちは多くのことを学びました。これからは、家庭では体験できない活動を、園生活の中に取り入れていただけたらと思います。

(長野県・可知津田子)

人・自然との豊かなかかわりを満喫

入園前から、未就園児のための「ちゅーりっぷ保育」に参加していたので、先生や園児とも顔馴染みになり、園生活もすぐに溶け込みました。自然に囲まれた環境にあり、園外保育では野山に虫や花を捜しに行ったり、川で魚を捕ったりと、自然を五感で満喫するこ

とができます。また小学校と併設であることも大きな魅力です。幼小連携が充実し、小学生の長女と同じ行事に参加することも多々あります。このように、入園前から卒園後まで、豊かな人間・自然とのかわりの中で、子どもも親も育っていけるような素敵な幼稚園です。(鹿児島県・末満恵美子)

移り変わる四季を感じながら手をつないで、おしゃべりして

入園した当時は、片道20分の徒歩通園がとて不安でした。しかし、毎日わが子と手をつないで歩いているといつもの道は四季によっていろいろ移り変わることを教えてくれました。片道20分の中で、子どもとの会話がはずむようになり、徒歩通園が楽しくなりました。園では、毎日砂遊びに夢中になり、体中、砂だらけのときもあります。草花や野菜を育て、土に親しみ、自然にふれあうことで、物を大切にするようになり、おだやかに生きてきたようです。この2年間の公立幼稚園での生活は将来の人間形成の土台を作ってくれたように思います。(埼玉県・東田貴子)

子育て 親育ち10年

子育てを始めて10年、日々の子育ての難しさに直面しては、子どもにこうあってほしいと願ってしまいます。以前の私は子どもが望むものを先回りして用意し、そのために子どものやる気や子ども自身の考える力を押さえてしまっていました。それに気づかせてくださったのは、3人の子どもがお世話になった幼稚園の先生方でした。「たとえ多難であっても、実りは大きいのだから子どもたちを見つめて待とう」と、今は思います。

(山梨県・古屋由紀)



教育講話会に参加して

幼稚園で、私たち保護者が企画・主催する教育講話会が開催されました。保護者全員のアンケートにより参加希望のテーマを募り、その結果、地域で悩みの相談をしている団体の方に「子どもの悩み相談の現場から」というテーマで話していただきました。保護者の率直な意見、要望を反映したことで、より参加しやすい講話会となり、当日の会場はほぼ満席。有意義で充実感の持てた一日となりました。園はこのように、私たち保護者の勉強の場でもあります。(栃木県・鈴木厚子)



さまざまな交流

子育ては地域ぐるみで。
親も子も、
たくさんの人と出会い、
さまざまにかかわる中で、
大きく大きく育つ。



い生活の中で、息子はもちろん、親もどれほどのことを吸収したでしょう。子ども同士の摩擦、親同士のあつれき、純粋培養の中では決して経験することのない苦しいことも正直ありましたが、そのたびに子どもとともに乗り越えた結果、良いものが残ったと自負しています。この時期は、子どもにとっても土壌作りの大切な時期と思われます。良い園、良い先生方に恵まれたことを、感謝しています。
(鳥取県・浜田明子)

地域のつながりの中で親子が充実

私の住んでいる町は、旧家が多く公園もなく、友達と知り合える機会がありません。初めての子育てで余裕がなく、相談する友達もおらず寂しい思いをしていました。しかし、入園してからは近所の友達がたくさん増え、地域の交流が盛んになって親子共に充実した日々を送れるようになりました。先日、下の子が熱を出した時に、友達のお母さんがお迎えを快く引き受けて下さり、とてもありがたかったです。どの幼稚園に入園するか悩みましたが、地域にある公立にして本当によかったと思っています。
(奈良県・塚本佳子)

「ひよこ組」大好き

子どもが通っている幼稚園には「ひよこ組」という預かり保育のクラスがあり、下の子どもが急に熱を出したときや急用ができたとき、時には私のリフレッシュのために利用しています。「ひよこ組」では家庭的な雰囲気のある少人数でゆったりと過ごしたり、近所の児童館へ行って小学生といっしょに遊んだりするようで、子どもは行くのをとても楽しみにしています。そして私も、この預かり保育のおかげで気持ちにゆとりができ、子育てが楽しくなってきました。
(兵庫県・松尾敏子)



福祉の心を育てる幼稚園

地域のお年寄りや障害のある方と日常的にふれあったり、育てた野菜を調理したり、できないことに挑戦するなど、園ではさまざまな体験をさせていただいています。子どもが肌で感じ、考え、心を動かした経験は、生きていく力の源や行動の基準になると考えます。最初車イスのK氏を遠巻きに眺めていた娘が、いっしょに遊ぶ中でしげんと彼を受け入れ、K氏の気持ちに寄り添って考えたり、工夫したりするようになりました。K氏とのかかわりが家族でも話題になり、娘だけでなく家族の障害者福祉への関心を増すきっかけにもなりました。
(滋賀県・島津千秋)

子どもも育つ大人も育つ幼稚園

9割が核家族という地域にある幼稚園に子どもたちがお世話になるうちに、子育ての不安やストレスが解消していきました。保護者にも門が開かれ、サークル活動や懇談会などを通して母親同士も友達作りをし、子どもだけでなく、大人も育ち合える場ができていくからです。通園班での送迎も良いコミュニケーションのひとつで、自分の子どもだけでなく一人一人をほめたり、励ましたりする人間関係も築けるようになりました。母親同士の交流が子育ての知恵の詰まった宝箱のようです。
(京都府・仲野郁代)

教わったことがいっぱい

やさしい心は友達とのかかわりから

年長児の娘のクラスに車イスの女の子が転入してきました。どうするかと思っていますと、普通に友達になってきました。降園後もいっしょに遊ぶようになり、彼女の足のことなどまるで気にしていないようでした。ところが先日、娘が転んで膝を大きく擦りむきました。痛そうだったので心配する私に一言、「こんなの全然平気。○○ちゃんも頑張っているんだから」。娘なりにきちんと友達の足を気づがっていたのでした。やさしさは心の中で確実に育っています。

(千葉県・レゲット菜穂子)

「子どもの手ってこんなに柔らかいと思いませんだわ」

祖父母がいてもかわりの少ない当園の子どもたちにとって「熟年みどり会」の方との交流は、温かい心に包まれたかかわりができます。広告で作る飛行機・笹舟・ボール紙の色鮮やかなコマなど「子どもたちが喜ぶ顔を見るのがうれしくてさ」そんな想いで作ってくださった愛情たっぷりの遊び。手に手をとってかかわってくださいます。「子どもたちから元気をもらいましたわ」「子どもの手ってこんなに柔らかいと思いませんだわ」まだ歩み始めたばかりの交流ですが、核家族の中で育った子どもたちに、新しい世界が広がったように感じます。
(三重県・篠山ふみ子)

園生活を通してたくましく育つ

「お母さん、今日バツタとってきたよ。見て」「お友達と水遊びしたよ」息子はとてもうれしそうに幼稚園でのことをよく話してくれます。「幼稚園は楽しいよ」親として何よりもうれしい言葉です。保育所から今の幼稚園に入園して一年目。内気な性格、うまくとけこめるか心配していたのがうそのようです。先生の温かい言葉かけや仲間たちとのふれあい、そして親子での遠足、老人ホームの方たちとの交流など、さまざまな行事を通してたくましく成長していることをありがたく思っています。
(長崎県・金田豊子)



おいしい給食

小学校で調理した給食が毎日食べられます。栄養士さんが幼稚園の子どもたちも考えて、献立を作ります。時々食べているようすを見に来て、味付けなども工夫してくれま。おかげで「今日のおかずはね！」と心を弾ませ、教えてくれている子どもの話から喜んで食べている姿がうかがえます。小学校に行っても同じ給食なので親にとってはとても安心です。また、給食だけではなく、幼、小、中が同じPTA連合会へ加入しているので、これからも地域ぐるみの子育てに協力していきたいと思っています。
(宮城県・斉藤千鶴子)

地域の幼稚園でよかった

娘は障害があり、入園4か月前に頭蓋骨の手術をしました。保護ヘルメットをかぶっての園生活です。心配しましたが、思いやりのある子どもたち、やさしい先生方、保護者の方々に見守られ、数々の体験をしながら生活面、言語面、社会面でめざましい成長です。困った時にいつも相談に乗ってくださる先生方、気軽につき合える保護者がいて親も幸せです。成長し続ける娘を見て、この幼稚園に入園させてもらい感謝しています。
(沖縄県・玉城純子)

感動の地域の祭り「最上まつり」に参加して

晴天の下、今年の「最上まつり」参加も素晴らしいものでした。「白雪姫」というテーマに基づいた演出、踊り、衣装は特に感動の嵐でした。子どもたちはあの暑さの中でも堂々と踊り、観客をも本当に楽しませてくれ、見ていて吸い込まれるようでした。考案から準備、練習と先生方のご苦労に心から感謝します。子どもたちと先生方と保護者とみんなでのことをやっていく幼稚園のパワーって本当にすごいなあと思いました。流れ落ちる汗と戦いながらも一生懸命頑張った年長さん、この次は運動会を楽しみにしています。
(山形県・堀 敦夫)

地域とのつながりを大切にする幼稚園

「お母さん、今日は中学生のお姉さんとお弁当食べたよ！」帰ってくるなり娘がニコニコ顔で話し始めました。市立幼稚園ということと近隣の小・中学校や高校の行事に参加して、交流を深める機会がたびたびあります。小学校をより身近に感じ、入学へ向けての親子の不安も解消されています。また、民生委員の方の「ふれあい保育」参加など、ひとりっ子や核家族化が進む中、多くの地域の人々と接することで、家庭ではできない社会性や協調性の貴重な勉強をさせていただいていると、感謝の気持ちでいっぱいです。
(神奈川県・河合幸代)

残り少ない園での親子勉強

3月には卒園、この2年間の息子の成長ぶりに目を細めています。初めての集団生活、親同士の交流すべて園を中心に始まった新し